

株主の皆様へ

**FUJI  
HENSOKUKI**  
Since 1947

第47期  
株主通信

平成22年1月1日～平成22年12月31日

# 環境調和型企業をめざして お客様の理想をカタチに

富士変速機の製品は、  
暮らしのどこかでつながっています。



株主の皆様へ



代表取締役社長

中島 寿和

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援ご愛顧を賜わりまことにありがたく厚くお礼申し上げます。

さて、当社は平成22年12月31日をもって第47期（平成22年1月1日から平成22年12月31日まで）が終了いたしましたので、ここに事業の概況をご報告申し上げます。

今後とも株主の皆様の一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年3月

## 企業理念

我社は顧客の視点に立ち、動力伝導技術をコアコンピタンス事業とし、常に新技術を深究し、顧客の繁栄と社会の発展に貢献することを目的とする。

目次	株主の皆様へ	1	製品紹介	9
	事業の概況	2	トピックス	12
	財務ハイライト	4	会社概要	13
	事業別概況	5	株式の状況	14
	財務諸表	7	株主メモ	

### 会社の事業の経過および成果

当期におけるわが国経済は、海外における景気の回復や政府の景気刺激策に支えられ、緩やかな回復傾向が見られたものの、厳しい雇用情勢や急激な円高などに加え、年度後半には景気刺激策の一部終了や生産の減少などにより景気は足踏み状態となり、企業を取り巻く環境は総じて厳しい状況で推移いたしました。

当社関連の減速機業界は、設備投資の持ち直しにより回復基調で推移いたしました。立体駐車場業界においては、不動産や建築需要の低迷により機械式駐車場の新規受注は減少いたしました。

このような環境のもと、当社は社内組織体制を開発から生産および販売まで統制された事業部制に再編し、お客様の要望に迅速に対応できる体制とお客様目線の事業経営に取り組み、顧客満足度の向上と積極的な事業構造改革を進めてまいりました。

減速機関連事業においては、当社の得意な特殊減速機の設計と生産を迅速に進め、「お客様の理想をカタチに」をコンセプトに差別化した製品開発とより確かなモノづくりを行い、収益体質に向けた継続

的な原価低減活動を実施いたしました。

駐車場装置関連事業においては、主力製品であるくし歯式駐車場装置パズルタワーの販促活動を重点的に行い、安定した受注と収益の確保に努めてまいりました。

室内外装品関連事業においては、主力製品のスライディングドアシリーズの製品改良と納期短縮を図り、また、新たなビジネスモデルとして新製品「パネルルーバー」の市場導入と販促活動により受注獲得に努めてまいりました。

以上の結果、当期における売上高は7,028百万円（前期比2.5%増）と増収となりました。損益面につきましては、減速機関連事業においては、売上高の増加に加え徹底した原価低減活動と生産性の向上を図り収益を改善いたしました。駐車場装置関連事業においては、新規物件の受注が減少したもののメンテナンス事業ならびに改造・改修工事が堅調に推移したこともあり、営業利益は296百万円（前期比83.8%増）となりました。また、経常利益は324百万円（前期比62.8%増）、当期純利益は144百万円（前期比48.1%増）となりました。

### 対処すべき課題

今後のわが国経済の見通しといたしましては、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、景気は持ち直して行くことが期待されるものの、欧米等の先進国における信用不安や高い失業率さらには円高の進行など、景気を下押しするリスクが存在することが懸念されます。さらには、デフレの影響や雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることもあり、経営環境は予断を許さない状況が続くものと思われま

す。

このような環境のもと、当社といたしましては、昨年に再編した事業部制のもと「お客様の理想をカタチに」をコンセプトに独自の技術開発とモノづくりを行い、確かな品質と新たな付加価値を付けた製品とサービスを提供し、事業の発展と成長を目指してまいります。また、経営資源の有効活用と継続的な原価低減に加え、見える化改善活動により各事業の収益体質強化に努めてまいります。

減速機関連事業では、より付加価値のある製品開発とより確かなモノづくりを推進し、顧客満足度と収益力の向上を目指してまいります。駐車場装置関

連事業では、製品のコンセプトおよび仕様の見直しにより付加価値のある製品への改良を進め、安定した受注と収益の確保に努めてまいります。室内外装品関連事業では、「パネルルーバー」の販促活動をより重点的に行い、受注獲得と収益改善を進めてまいります。

なお、次期の業績につきましては、売上高6,980百万円、営業利益240百万円、経常利益260百万円、当期純利益120百万円を見込んでおります。

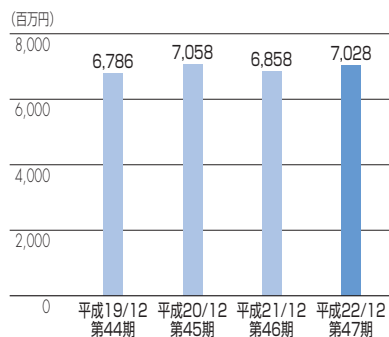
## 当期の概要

売上高  
**7,028**百万円  
(前期比 2.5%増)

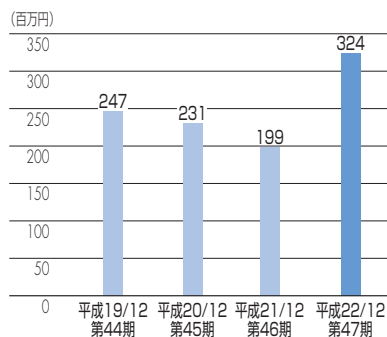
経常利益  
**324**百万円  
(前期比 62.8%増)

当期純利益  
**144**百万円  
(前期比 48.1%増)

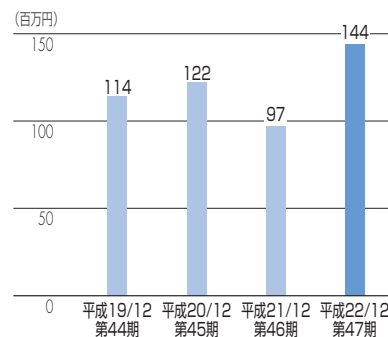
### 売上高



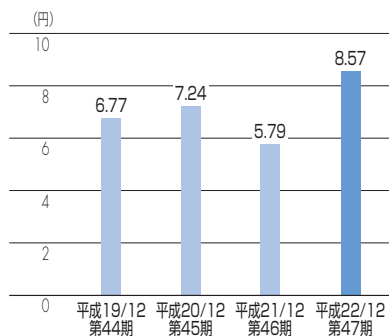
### 経常利益



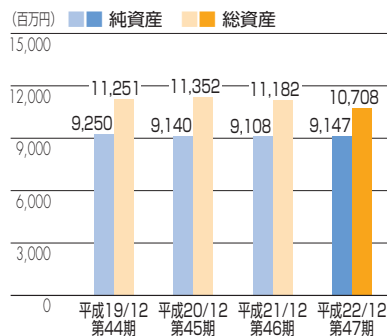
### 当期純利益



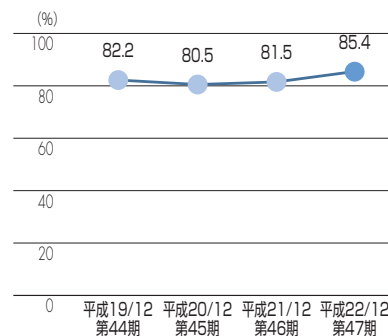
### 1株当たり当期純利益



### 純資産・総資産

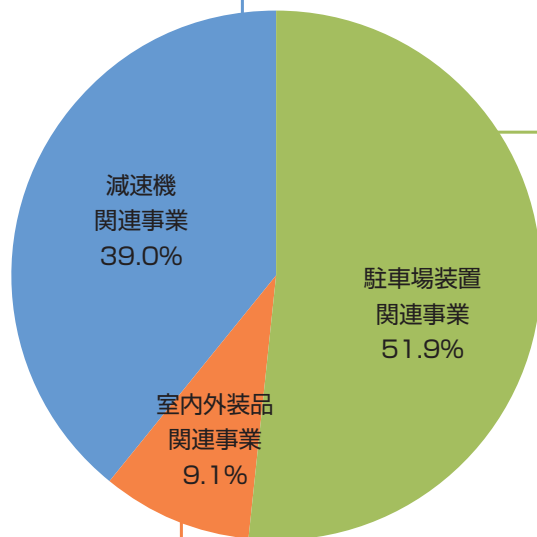


### 自己資本比率



# 事業別概況

事業別売上高構成比



## 減速機関連事業

売上高  
**2,742,873千円**  
(前期比 24.1%増)

《主要製品》  
汎用減速機 (ギヤードモータ)  
特殊減速機  
シャッター用駆動装置  
ジェットセイバー (消防用非常装置)



## 駐車場装置関連事業

売上高  
**3,646,875千円**  
(前期比 5.5%減)

《主要製品》  
パズルタワー  
スーパーパズルGS、LB  
パズルタワーミニ10  
パズルタワーエコ軽  
ペアパーク



## 室内外装品関連事業

売上高  
**638,553千円**  
(前期比 19.0%減)

《主要製品》  
可動間仕切 (スライディングドア)  
パネルルーバー

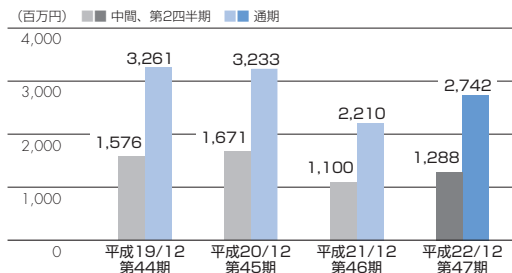


## 特殊減速機を中心に積極的な営業活動を展開いたしました

設備投資は回復傾向にあるものの依然として厳しい事業環境の中、産業機械向け展示会に出展し製品認知度の向上に努め、当社の強みを活かした特殊減速機を中心に積極的な営業活動を展開したことにより、売上高は2,742百万円（前期比24.1%増）と増収となりました。

た。営業利益につきましては、売上高の増加に加え見える化改善活動による生産性の向上と原価低減の結果14百万円（前期は211百万円の損失）となりました。

### 売上高

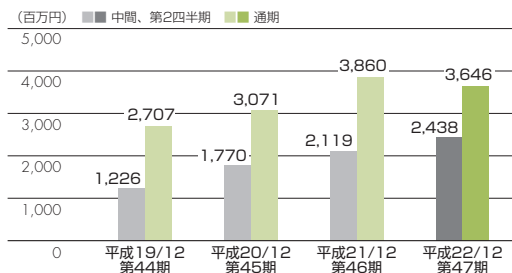


## メンテナンス事業ならびに改造・改修工事は計画を上回りました

厳しい受注環境の中、メンテナンス事業ならびに改造・改修工事は計画を上回りましたが、新規物件の受注が減少したことにより、売上高は3,646百万円（前期比5.5%減）となりました。営業利益につきましては、継続的なVE活動と工期短縮により原価低減に努

めましたが、売上高の減少により、299百万円（前期比7.0%減）となりました。なお、売上高の計上基準を従来の工事完成基準から工事進行基準に変更しており、この変更により売上高が134百万円、営業利益が17百万円増加しております。

### 売上高

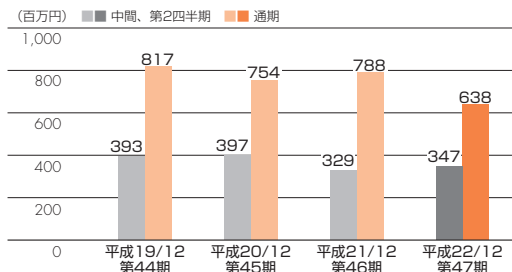


## 新製品「パネルルーバー」を市場投入いたしました

公共投資が低調に推移するなど厳しい事業環境が続く中、新製品「パネルルーバー」を市場投入しましたが、売上高は638百万円（前期比19.0%減）となりました。営

業損益につきましては、VE活動により原価低減に努めましたが、売上高減少による固定費負担を補えず、16百万円の損失（前期は50百万円の利益）となりました。

### 売上高



# 財務諸表

## 貸借対照表

(単位：千円)

	前 期 平成21年12月31日現在	当 期 平成22年12月31日現在
資産の部		
流動資産	7,441,722	7,158,233
固定資産	3,740,896	3,549,967
有形固定資産	2,801,665	2,712,311
無形固定資産	32,767	27,763
投資その他の資産	906,463	809,892
<b>① 資産合計</b>	<b>11,182,619</b>	<b>10,708,200</b>
負債の部		
流動負債	1,773,840	1,256,573
固定負債	299,817	304,617
<b>② 負債合計</b>	<b>2,073,658</b>	<b>1,561,190</b>
純資産の部		
株主資本	9,145,192	9,188,629
資本金	2,507,500	2,507,500
資本剰余金	3,896,954	3,896,953
利益剰余金	2,938,424	2,981,892
自己株式	△ 197,685	△ 197,717
評価・換算差額等	△ 36,232	△ 41,619
<b>③ 純資産合計</b>	<b>9,108,960</b>	<b>9,147,009</b>
負債・純資産合計	11,182,619	10,708,200

※ 千円未満を切り捨てて表示しています。

### ① 資産

流動資産は、前期末に比べ283百万円減少し7,158百万円となりました。

これは、現金及び預金や、売上債権が増加した一方で、駐車場装置関連事業における受注残高の減少などにより棚卸資産が減少したことに加え、ファクタリング債権を含む未収入金が減少したことが主な原因です。

固定資産は、前期末に比べ190百万円減少し、3,549百万円となりました。

これは、有形固定資産が減価償却等により減少したこと、保有株式の株価下落等により投資有価証券が減少したこと、また長期貸付金が減少したことが主な原因です。

### ② 負債

流動負債は、前期末に比べ517百万円減少し1,256百万円となりました。

これは、未払法人税等が増加した一方で、駐車場工事に係る前受代金が減少したことや、支払手形が減少したことが主な原因です。

固定負債は、前期末に比べ4百万円増加し304百万円となりました。

これは、役員退職慰労引当金が減少した一方で、リース債務が増加したことや、退職給付引当金が増加したことが主な原因です。

### ③ 純資産

純資産は、前期末に比べ38百万円増加し9,147百万円となりました。

これは、その他有価証券評価差額金が減少した一方で、利益剰余金が増加したことが主な原因です。

この結果、自己資本比率は前期末に比べ3.9ポイント増加し85.4%となり、1株当たり純資産額は前期末に比べ2円26銭増加し540円73銭となりました。

### 注) 完成工事高及び完成工事原価の計上基準の変更

請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」を適用し、当事業年度に着手した工事契約から、当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

この結果、従来の方方法に比べて、当事業年度において売上高は134,530千円、営業利益は17,147千円増加しております。

## 損益計算書

(単位：千円)

	前 期 平成21年1月1日から 平成21年12月31日まで	当 期 平成22年1月1日から 平成22年12月31日まで
売上高	6,858,765	7,028,301
売上原価	5,910,310	5,884,747
売上総利益	948,455	1,143,553
販売費及び一般管理費	787,105	847,016
営業利益	161,349	296,537
営業外収益	38,444	29,537
営業外費用	293	1,197
経常利益	199,501	324,877
特別利益	15,592	2,446
特別損失	30,831	59,007
税引前当期純利益	184,261	268,316
法人税、住民税及び事業税	97,998	131,678
法人税等調整額	△ 11,605	△ 8,327
当期純利益	97,868	144,965

※ 千円未満を切り捨てて表示しています。

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前 期 平成21年1月1日から 平成21年12月31日まで	当 期 平成22年1月1日から 平成22年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	420,660	755,916
投資活動によるキャッシュ・フロー	23,885	△ 19,837
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 104,277	△ 106,359
現金及び現金同等物の増減額	340,268	629,719
現金及び現金同等物の期首残高	2,655,775	2,996,043
現金及び現金同等物の期末残高	2,996,043	3,625,763

※ 千円未満を切り捨てて表示しています。

## 配当について

当社は、株主の皆様に対する適切な利益還元を経営の重要な政策と位置づけ、安定した配当を継続することを基本方針としております。この基本方針に基づき、期末配当金につきましては、1株当たり3円を実施させていただきます。なお、中間配当金として1株当たり3円を実施しておりますので、年間配当金は、1株当たり合計6円となります。

## 株主資本等変動計算書 (平成22年1月1日から平成22年12月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本					評価・換差額等	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計	その他有価証券 評価差額金	
平成21年12月31日残高	2,507,500	3,896,954	2,938,424	△ 197,685	9,145,192	△ 36,232	9,108,960
事業年度中の変動額							
剰余金の配当			△ 101,497		△ 101,497		△ 101,497
当期純利益			144,965		144,965		144,965
自己株式の取得				△ 45	△ 45		△ 45
自己株式の処分		△ 0		14	13		13
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)						△ 5,386	△ 5,386
事業年度中の変動額合計	—	△ 0	43,468	△ 31	43,436	△ 5,386	38,049
平成22年12月31日残高	2,507,500	3,896,953	2,981,892	△ 197,717	9,188,629	△ 41,619	9,147,009

※ 千円未満を切り捨てて表示しています。

富士変速機のギヤードモータは暮らしのどこかでつながっています。

確かな技術と信頼で選ばれている

FUJIBENのギヤードモータが暮らし・産業のさまざまなシーンで活躍しています

多様化するメカトロニクスにお応えし、多種多彩な変・減速機の応用製品を生み出しています。産業分野から暮らしの分野まで幅広く利用されています。

産業分野

汎用減速機  
(ギヤードモータ)

VX Series 平行軸

VC Series 直行軸



共通特長

- インバータによる可変速運転が可能
- ブレーキ手動解放装置付
- 端子BOX90°位置変更可
- 小型・軽量 ●低騒音・長寿命
- メンテナンスフリー

暮らしの分野

暮らしの分野で活躍するギヤードモータ

かけがえのない生命と財産をまもる万一の際に安心な消防用非常装置『ジェットセイバー』

減速機のノウハウを応用したシャッター駆動装置。その中でもジェットセイバーは優れた技術力を結集して開発した電動シャッター水圧開放装置です。非常の際、消防車の強力な送水圧で外部よりタービンを回し、シャッターを開放。わずか1分で消防隊が消火活動に移れる状態にし、かけがえのない人命の救出や、大切な財産の消失防止に役立ちます。



独自技術をベースに  
画期的なパーキングシステムを創造しています。

「くし歯」方式をはじめ、独自技術で  
業界トップクラスの入出庫スピード  
高い安全性と省エネを実現

## 駐車場の新世代をリードする “パズルタワー”



### パズルタワーの特長

#### ハイスピード

昇降路での車の受け渡しを瞬時に行うパレットレス方式を採用し、無駄のない動きで、パレット方式と比較して業界トップクラスの処理能力を誇ります。

#### 耐震構造 低騒音・低振動

当社独自の設計で、すぐれた耐震性を有しています。リフトは低騒音・低振動設計で、きわめて静かな高速運転により深夜でも安心です。

#### 省エネ

入出庫時は、必要な1台だけを動かすため、消費電力量は従来比1/2で済みます。

#### 安全性

当社独自のトータル品質管理システムを導入し、人と車の安全面を考慮して、二重三重の安全を確保しています。

立地条件や用途に合わせて  
充実したパーキングシステムラインナップを展開  
オーナー様のあらゆるニーズに対応しています

#### スーパーパズルGS (大規模地下式駐車場)



#### スーパーパズルLB (中規模地下式駐車場)



#### パズルタワー・エコ軽 (軽自動車専用駐車場)



#### ペアパーク (ご家庭でも活躍の2段ベット方式)



## 新機能

人を、まちを潤す、次世代パーキングシステムをめざして、  
主力製品のパズルタワーに追加できる新たな機能を開発しました。

### 電気自動車 対応充電設備

電気自動車は、走行時に大気汚染の原因となる二酸化炭素などをまったく出さない地球環境に優しい車で、普及のために充電設備の拡充が望まれます。

お客様のご要望により、主力製品のパズルタワーに電気自動車用充電設備の対応が可能です。



### Fujica (フジカ) システム

操作盤のカードシステムにフェリカ規格を採用することで、専用カードが不要となります。

JR東日本の「Suica」などのフェリカカードで入出庫操作ができます。

また、携帯電話でも入出庫操作ができるため、とても便利です。(電子マネー「Edy」おサイフケータイ対応の機種に限ります。)

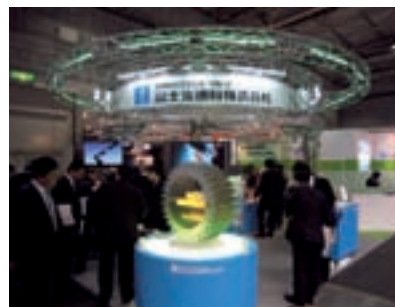


※ 上記の両システムは当社パズルタワーのオプションです。

## 「第13回 関西機械要素技術展」に 出展いたしました。

インテックス大阪で開催しました「第13回関西機械要素技術展」（平成22年10月6日～8日開催）に出展いたしました。

新製品の「プロテクト・リレー付きギヤードモータ」や軽自動車専用の機械式駐車場「パズルタワー・エコ軽」のデモ機を含め、数多くの減速機製品を展示しました。また、3D映像による製品PRは、来場者の注目を集めました。



新製品の「プロテクト・リレー付きギヤードモータ」は、過負荷・過負荷変動から機械装置を守る過負荷保護装置搭載のギヤードモータです。

電流値の異常を確実に検知し、マイコン制御装置で遮断します。

さらに、ディップスイッチにより遮断電流・遮断時間の設定が簡単にできます。



## 新製品

過負荷保護装置 搭載  
プロテクト・リレー付き  
ギヤードモータ

## Welport (ウェルポート) バリアフリー対応 福祉駐車場装置の バリエーション追加

お客様の理想をカタチにするため、立体駐車場のバリアフリー認定を取得した福祉駐車場「ウェルポート・パズルタワーF」のバリエーションとして、大規模地下式駐車場「スーパーパズルGS」およびエレベータ方式駐車場「超高層重列式パズルタワー」のバリアフリー対応の駐車場装置を開発し、国土交通省および立体駐車場工業会の認定を取得いたしました。



## 会社概要

社名	富士変速機株式会社
英文社名	FUJI HENSOKUKI CO.,LTD.
創業	昭和22年4月
設立	昭和40年1月
資本金	25億750万円
岐阜県知事許可	建築工事業 (特-22) 第10684号 機械器具設置工事業 (特-22) 第10684号
上場取引所	名古屋証券取引所 市場第二部
証券コード	6295
従業員数	195名 (男性183名 女性12名)

## 主要な事業所

本社	岐阜県岐阜市中洲町18 電話 (058) 271-6521 (代表)
美濃工場	岐阜県美濃市極楽寺963-1 電話 (0575) 33-1151 (代表)
テクノパーク工場	岐阜県美濃市楓台7 電話 (0575) 35-3972 (代表)
東日本営業	東京都渋谷区代々木2-16-4 電話 (03) 3370-6359 (代表)

## 取締役および監査役

代表取締役社長	中島 寿和
常務取締役	中村 秀夫
取締役	志賀 宏昭
取締役	足立 高則
取締役	井本 明
取締役	小酒井 延雄
取締役	國米 利政
常勤監査役	小島 俊彦
監査役	板垣 祥司
監査役	大富 裕哉
監査役	宮川 青二

- (注) 1. 取締役の國米利政氏は、社外取締役であります。  
2. 監査役の板垣祥司、大富裕哉、宮川青二の各氏は、社外監査役であります。

当社ホームページを  
ご覧ください

<http://www.fujihensokuki.co.jp/>



株主・投資家向けのIR情報から取扱い製品まで、会社の幅広い情報を提供しております。ぜひ一度、ご覧ください。

# 株式の状況 (平成22年12月31日現在)

## 株式の状況

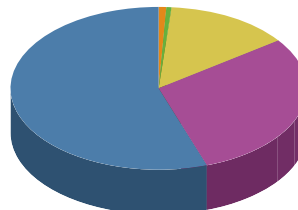
発行可能株式総数	44,000,000株
発行済株式の総数	17,955,000株
単元株式数	100株
株主数	1,689名

## 大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
立川ブラインド工業株式会社	9,393	55.52
富士変速機取引先持株会	1,262	7.46
株式会社愛知銀行	526	3.11
岐阜信用金庫	437	2.58
富士変速機従業員持株会	412	2.44
株式会社十六銀行	334	1.97
中央三井信託銀行株式会社	171	1.01
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	161	0.95
藪内健藏	148	0.88
第一生命保険株式会社	141	0.83

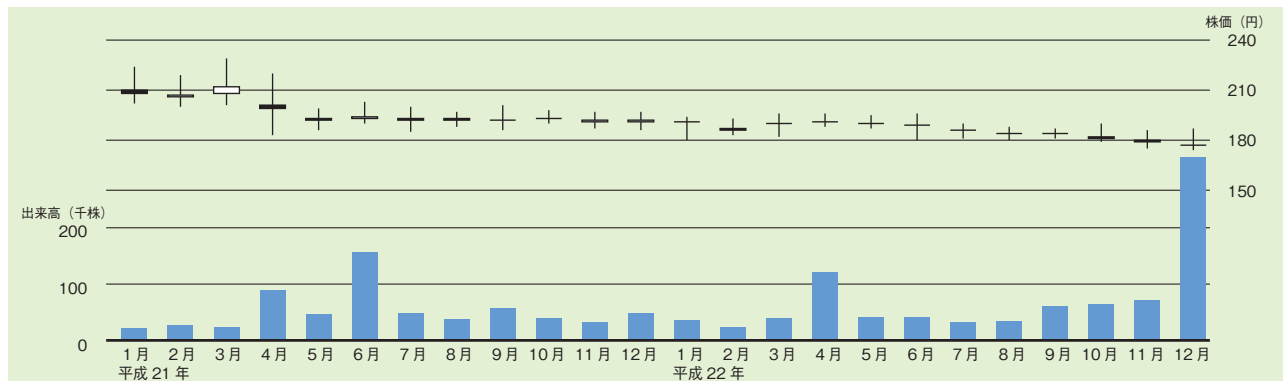
(注) 1. 当社は、自己株式1,038千株を保有しておりますが、当該株式には議決権がないため、上記大株主から除いております。  
また、出資比率は自己株式を控除して計算しております。  
2. 千株未満は切り捨てて表示しております。

## 株式の所有者別分布状況



外国法人	2名	0.32%	
証券会社	14名	0.21%	
金融機関	17名	13.84%	
個人・その他	5,421,934株	30.20%	
その他国内法人	64名	9,952,916株	55.43%

## 株価および出来高の推移



# 株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月下旬
基準日	定時株主総会：期末配当：毎年12月31日 中間配当：毎年6月30日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることが出来ない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 <a href="http://www.fujihensokuki.co.jp/kessan/">http://www.fujihensokuki.co.jp/kessan/</a>
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店および全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

## ●住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

## ●未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

## ●「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことが出来ます。なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、本年より配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は、大切に保管してください。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収額の計算は証券会社等で行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いいたします。